

# Principal Correspondence

## 創立者の 20 回忌によせて

今年是学校法人リリー文化学園創立者、初代学園長大久保久子女史の 20 回忌を迎えます。

リリー文化学園は創立 73 年目

リリーベール小学校は創立 18 年目を迎えます。

### リリー文化学園の起こり

大久保久子は昭和 24 年東京の文化服装学院(現文化女子大学グループ)を卒業して、若干 24 歳でリリー洋裁研究所という私塾を水戸市南町に開きました。現代でも女性が 24 歳で企業を起こす人は、そう多くはないように思います。

子どものころから経済的に恵まれず、苦学して、事業も大変な困難を乗り越えた人生から、創業者は、差別・偏見ということには一切無縁の人でした。

どんな職業の人とも分け隔てなくお付き合いしていましたから、我が家に集う人は、茨城の政治・経済・文化人だけでなく、平磯の漁師さんや農家のおばさんもたくさん出入りしていました。

「人は能力と人格だけで判断されるべきであり、性別・国籍・年齢・氏素性は関係ありません。」とはっきりと言い、家柄とか門閥、学閥に頼る人にシンパシーをもたない人でした。タイの子どもの里親になったり、戦後茨城県で 2 番目の女性海外渡航者になったり、ニューヨークとパリでファッションを学んだりした経験など、国際的な目をもってローカルで行動することを身をもって実践した人生だったと思います。女性であっても自立することの大切さ、男女共にリーダーシップが必要なこと…。物を創造する大切さ、困難を乗り越えるのは創造性の高い人であること。そんなことを自分の体験から常日頃述べていました。

私(学園長)が小学校を創るにあたり想起したのは、まず綱領という形からでした。創立者大久保久子なら、こう考えるであろうと…。



### リリーベール綱領

私たちは 人間性を信じ

意義ある人生を求め

未来に役立つ人となるために

自立の心 創造性 指導力を培います。

# Principal Correspondence

## 天才について

天才に共通しているのは「集中力」。

「世の中の天才」とよばれる人を分析した書を読んだことがあります。ひとつの事に没頭して、3年くらいは寝食忘れるようなことをする時期があるようです。例えばピカソは意図的に「青の時代」とよばれる時代を創っています。「青ばかり使う」と決めたら3年くらいは青ばかり徹底的に追求したのです。ひとつの事に集中している状況を長く続けられるというのは明らかに技術であります。「才能とは集中力である。」という学者もいるほどで、これは幼少期に育まれるという学説もあります。



もうひとつ天才に共通するのは、発明家のエジソンでも画家のピカソ、詩人ゲーテにしても驚くほど多作であるということです（夭折した天才も長生きしていたらきっと多作だったと思われます。）。少作で完全に質の高いものは生まれにくい。天才たちは同じようなもの（駄作も含めて）をたくさん作りながら改良していくうちに傑作が生まれているようです。「天才とは量である。」という学説もあります。

最後に「ひらめきは、怠け者には訪れない客である。」という言葉があるように、日ごろから問題意識を持って、考えぬき、努力していないと、豊かな発想が浮かばないことも共通点としてあげられるでしょう。

一般に才能を伸ばすのに、500時間、1,500時間、5,000~10,000時間という3つの壁があるとされます。

例えばピアノを習う、英語を習うとします。大体500時間の練習を越えると初心者を脱し、1,500時間費やすとピアノならお客様の前でちょっと弾ける中級者、英語なら1人で海外を旅できるレベルでしょうか。さらに最低5,000~10,000時間以上費やすとピアノなら音楽の先生や音楽教室の先生、英語なら通訳や翻訳者といったレベルのプロになれると言います（一流、二流は別にして）。どんな天才も時間はかけています。

一芸に秀でるのに王道はありません。別に天才を目指さなくとも、少なくともこの方程式が子どもたちの自己実現を助ける糸口にはなりましょう。

当たり前のことを「あせらずたゆまず」こつこつとこなしていくこと。  
継続は力なり。集中力を身につけ、その上で「ひらめき」が訪れれば、  
ひよっとすると誰もが天才になれそうです。

ただし天才が幸せな人生をおくったか、おくれるかは別の話ですが・・・

